ますことを樂しみに存じます。私共の宅は町はづれでございますため、お醫者樣の便が惡うございますので子供達の健康には東京に居りました時に倍して注意致して居りますが、お蔭樣にて只今までは少しも障りなく元氣に致して居ります。

これから先もお國のためこの米澤で子供達を、皆樣の御期待に背かぬ強い日本の子に育てゝまゐり度いと覺悟を又新に致して居ります。（謙三氏夫人）

疎開地に於ける子供の生活

阿部廣司

私の子供は六月二十二日に福島縣平市の母方の里へ疎開しました。子供は里歸りのつもりで、よろこんでゐます。

子供は疎開していくと直に私のところへ端書をかきはじめました。二日か三日おきに一枚づゝ端書がきます。田舍で御馳走になつた珍らしい果物、田植、田の草取り、人形遊びの繪など端書全面に描いてゐます。このごろでは文字を書くことをおぼえてきて、繪は端書の半分にかき、下の半分には鉛筆で「オトウサン　アツイデセウ」とか「コレハオイシイモモデス」とか書いてくれます。近頃は端書が容易に手に入らないから畫用紙や包紙などに書かせてまとめて送らせるやうにしてゐます。疎開してはじめて、子供は便りを書くといふことに興味をもつやうになりました。そのため、繪を畫くことも、文字など書くことも獨りで上手になつてきたやうです。近頃では先生や、兵隊さんへも端書をさしあげるやうにさせてゐます。

○

次に疎開幼兒の親として感じたことは幼稚園教育の有難さです。疎開地の子供の生活は幼稚園生活の延長です。子供は御飯ぢき食卓に向へば必ず兵隊さんありがたうと言つてからいただきます。幼稚園で躾けていたゞいた作法を、里へ歸つて實踐してゐます。

子供の遊びも幼稚園で遊んでゐたそのまをやつてゐます。このごろは幼稚園生活を發展させる意味で、幼稚園で作つたものを想ひ出させて作らせてゐます。繪は氣がむけば何時でも描けるやうに藁半紙を與へてあります。この間歸つてみたら作品は皆んな机の上にならべてあるし、繪は神棚の下に貼りつけてありました。よく田舍の子供は習字や繪を神棚の下に貼る習慣がありますので、子供もそれにならつたのださうです。

唱歌は田舍では新しいものを敎へることもできないので、散歩に出ても、庭に遊んでゐても、幼稚園で習つた唱歌遊戯で樂しさうです。この唱歌遊戯は子供としては一番自信あると見えて、疎開先のお友人にもやつてみせます。身は幼稚園を離れても、子供の心はいつも幼稚園で育つてゐるやうなものです。また幼稚園の兒童であるといふほこりが日々の生活の隨所に見られ、又どんなにか子供を力づけてゐます。

○

私の子供は脚が人より弱い子供でありま

すから都會の鋪裝道路の上を十分と歩けば疲れて仕まひます。田舍の田圃道に出ると三十分位歩いても疲れをうつたへません。毎日田舍の田圃道で歩くけいこをさせてゐますが、この子供には疎開といふことが一般と健脚になると思ひます。

○

この間は三日ばかり子供と遊んできました。三十分ばかり田舍道を歩いて私の生家へつきました。庭にトマトが赤く房になつてゐました。トマトの房を持つては不思議さうにみてゐました。

井戸水を汲んで手を洗はせました。「井戸水はどうしてつめたいの」ときかれました。水道の水ばかり使つてゐた子供には當然である間であります。厩のところに行つて馬が食物を食べてゐるところを珍らしさうにみてゐました。「馬は尻つぽを振りながらたべてゐるね」と言ひました。この日は子供と一緒になつて遊ぶつもりで、小川へ出て網で魚をすくひに行きました。なまづの子やふながたくさんとれました。なまづをみてはおたまぢやくしと言ひ、ふなをみては金魚だと言つてゐます。なまづとおたまぢやくしとはどうちがひますか、金魚とふなとはどうちがひますか、家に歸つてから勉強しました。

だんだん魚をすくつてゐる中に、子供は「お父さんこゝをすくひなさい、あそこをすくひなさい」と言ふやうになり面白い魚とりをしました。

こんなにして疎開地の生活は遊んでゐる中に自然に親しみを持つてきて、いろいろと子供ながらに注意して自然をみるやうになります。

○

お友人のことについては特に心配したのですが、親が心配するほどでもなく子供は名も知らない友人を幾人もつくつて仕まひました。これも幼稚園教育のおかげで、友人と遊び方ができてゐるため、仲よく遊んでゐます。今では田舍の方言になじむといふことがなくなりました。夕食の時など、「、、、さんはこんな言葉を使ふが、そんなこと言ふものではないね」など言ふことがあります。うちの子供は唱歌遊戯や人形作りなどよろこんでやるので、却つて近所の子供から大事にされて遊んでいただけます。（筆者は東京女子高等師範學校訓導）

鳥取に疎開して

畑村春子

私共疎開致しましたのは三月末でございましたか、土地に慣れぬ故か生活の變化か又それ以上に母親の不注意の爲でございませうか六歳四歳三歳の幼兒が順々に大腸カタル、肺炎等の大患に罹りまして、その度にこの子を死なせるのではないかと不安に怖きながら看病致しました。この土地には幸にお醫者樣がありますのでございますが何しても東京に居りましたようなわけにはまいりません。その爲ほつと心を安める暇もなく子供等の顏色や便の工合や寒暖の度や、種々しつゝこい程注意を與へなが